

# オンライン大学における

## 実践的 4 技能英語教材の適用と教育的効果

岡本 桂香, 井上 麻里, 河内 一了, 安間 文彦  
サイバー大学

### Adoption of Practical Comprehensive English Learning Materials at an Online University and Their Educational Effects

Keika Okamoto, Mari Inoue, Kazunori Kawauchi, Fumihiko Anma  
Cyber University

Cyber University, a fully online university, offers four required and four elective English courses, two credits each. Since April 2019, Cyber University has incorporated an external English teaching material and modified it as CU ENGLISH, to effectively enhance listening, reading, writing, and speaking skills. The new online solution can be accessed from a PC browser or mobile app, allowing learners to study anywhere and anytime. The lessons cover day-to-day scenes, latest news, and personal interests, automatically customized for each learner. Moreover, it offers live group lessons in which students discuss topics of interest with native English-speaking instructors and learners from other countries. The result of our first semester of offering the new courses shows that 85% of our students who took the proficiency test before and after their learning improved their proficiency scores. This paper introduces the background, course design, operation, and impact of CU ENGLISH.

キーワード: e ラーニング, 語学教育, 外国語学習, 聴解学習, 発話学習

#### 1. はじめに

すべての授業を通学不要でフルオンラインで実施するサイバー大学（以下、本学）では、外国語科目として必修 8 単位、選択 8 単位の英語科目、選択 4 単位の中国語科目を開講している。2019 年度より英語科目において、リーディング（読む）、ライティング（書く）、リスニング（聞く）、スピーキング（話す）の 4 技能をより効果的に学習できる外部教材を導入している。以下に、この外部教材を導入した英語教育の授業設計や効果について紹介する。

#### 2. サイバー大学の概要

サイバー大学は、2007 年 4 月に開学した、文部科学省が認定した我が国最初のインターネット大学である。対面授業によらずに、分散非同期型の e ラーニングに

よる「完全インターネット講義」を実践し、「いつでも""どこでも" 学べる環境を提供している。2019 年 5 月現在では約 2,600 名の本科生が在籍し、常時開講科目は 130 を超える。本学のカリキュラムは社会人向け高等教育の社会的ニーズを踏まえ、職務実践能力向上を目的とする情報工学系分野と IT を広域に応用できる経営やマネジメント分野が中心となっている。実践的な IT 系のスキルを身につけるため、専門科目にはプログラミングを伴う演習科目もあれば、必修の卒業研究では受講者同士のプレゼンテーションやディスカッションも行われる。そのため、非同期分散型の e ラーニングでありながら、本学では情報端末に依存しない学習環境であるクラウド型の演習環境の導入や個人が Web ベースで簡単にプレゼン動画を作成できるツールの独自開発などにより、これらの科目をスムーズに運用できるような体制を整備している。

### 3. サイバー大学における英語科目

本学で定めているディプロマ・ポリシー<sup>(1)</sup>の中で、修得すべき教養的能力のひとつとして「(外国語力) 社会人として職務を遂行する際に役立つ基礎的なレベルで、英語、もしくは中国語を、読み、書き、聞き、話すことができる。」がある。本学の英語科目はこのディプロマ・ポリシーに基づいてカリキュラムが構成されている。

開学当初は、必修科目においてリーディングやリスニングなど技能ごとに独立した科目が開講されていた。しかしながら、聞く力と話す力に関わるコンピテンシーを効果的に修得できる科目構成になっていないという問題や受講者のニーズを反映できていないという問題などがあった<sup>(2)</sup>。

これらの問題を解決するために、2013年度の英語科目カリキュラム改訂で、外部教材を取り入れて、技能ごとに科目を独立させるのではなく、ひとつの科目内で同時に4技能を鍛える、基礎から上級などのレベルで受講できる科目に変更した。

本学では、社会人受講者が約7割を占め、年齢層も幅広く、またこれまでの学習歴や入学動機もさまざまである。そのため、社会人受講者であれば職務の状況や、それぞれの英語力と意欲の度合いによって、受講者が自分にあったペースで自分の伸ばしたいスキルや関心のあるテーマをある程度選択できることが望ましい。自由度の高い学習を可能にし、英語コミュニケーション能力を培うことのできる演習授業を実現するために、2013年度春学期からはインタラクティブな仕組みをもった豊富な課題を提供可能な外部教材を導入し、実践を行ってきた。

### 4. 新外部教材の採用

2013年から各科目で同時に4技能を鍛えることができる外部教材の活用をはじめたが、課題も存在した。

#### (1) モバイル対応への課題

前述したように、本学の特色として、“いつでも”どこでも”学べる環境としてPCのみならず、スマートフォンやタブレットなどのモバイル端末からでもアプリを経由して学習できる学習管理システムを提供している。しかしながら、これまで英語科目で利用してい

た外部教材はモバイル端末からのアクセスに対応していないという課題があった。

#### (2) スピーキング学習への対応の課題

従来の教材では、発音とイントネーションの練習と確認ができるインタラクティブな学習ツールがあったが、意思伝達ができる会話機会が不足していた。

#### (3) 受講者のニーズにあわせた題材の課題

ディプロマ・ポリシーでも「社会人として職務を遂行する際に役立つ基礎的なレベル」と定めているように、社会人が実際の日常的な業務に関連した題材で学習できることが望ましい。しかしながら、これまでの学習教材では実践的なビジネスの場面や社会人としての教養や時事問題に対応した題材が少ないという課題があった。

### 4.1 「CU ENGLISH」の開発

前述の課題を踏まえ、さまざまな外部教材を検討した結果、米 Voxy 社が提供するオンライン英語サービス「Voxy」<sup>(3)</sup>を利用することとした。Voxy 社の英語サービスの主な特徴を挙げる。

#### (1) モバイル対応

Web アプリと同期している Android スマートフォンや iPhone 向けのアプリが用意され、デバイスを問わず、いつでもどこでも学習が可能である。

#### (2) スピーキング学習への対応

英語で自分の考えをまとめ、グループで会話ができるライブ指導グループレッスンが提供されている。

#### (3) 実社会の生きた題材

世界情勢や社会問題、経済、IT などに関する最新の記事や動画を用いた実践的で多彩な学習コンテンツが随時更新して提供されている。

Voxy は、このように前述の課題を解決することができる上、一人ひとりの興味や習熟度に合わせたアダプティブラーニングが可能である。また、本学の全履修科目のコンテンツや受講管理を行っているクラウド型学習管理システム「Cloud Campus」と連携し、柔軟な機能開発が可能であり、オンライン大学に不可欠な要素を持ち合わせていた。これらの特徴が決め手となり、Voxy 社が提供するサービスを高等教育における正規科目としてカスタマイズした「CU ENGLISH」教材の開発を行った。

## 5. 新英語科目の構成

### 5.1 科目目標とレベル設定

本学では、表 1 に示すように必修科目 4 科目 8 単位及び選択科目 4 科目 8 単位の英語科目を用意している。

表 1 英語科目一覧 (2019 年度)

	科目	概要
必修	基礎英語 I	日常的な場面において頻出する基本的な表現を学習し、一般生活で必要とされる初歩的な英語の総合的能力の向上を目指す。
	基礎英語 II	日常的な社会生活において頻出する基本的な表現を学習し、対外的な場面において必要となる英語力を伸ばす訓練を行う。
	中級英語 I	職場や趣味の場で対話を行う際の表現を学習し、簡単な説明を行うために必要となる中級の英語力を伸ばす。
	中級英語 II	職場や趣味の場で対話を行う際の表現を学習し、詳細解説や議論に必要となる中級の英語力を伸ばす。
選択	上級英語 I-A	一般的な生活の場面において遭遇する個性的な声による複雑な長文や解説の要点を理解し、記憶し、それに対応できる中級・上級の英語力を伸ばす。
	上級英語 I-B	社会生活の場において利用することわざや時事用語を使った論理的な長文の要点を理解し、記憶し、それに対応できる中級・上級の英語力を伸ばす。
	上級英語 II-A	大学などの学術的な場面や知識人との会話における長く論理的な解説や意見の要点を理解し、記憶し、それに対応できる上級の英語力を伸ばす。
	上級英語 II-B	社会生活の場において新技術をテーマにした長く論理的な解説の要点を理解し、記憶し、それに対応できる上級の英語力を伸ばす。

### 5.2 学習時間の担保

本学の 2 単位科目は通常、各回 90 分相当の授業を 15 週および期末試験という構成で設計されている。そ

のため、まず標準的な授業時間として、90 分×15、つまり 22.5 時間相当の学習コンテンツとして構成する必要があった。

Voxy の各教材には様々なテーマ別に学習単位として「ユニット」というまとまりが存在する。1 ユニットの 180 分相当のコンテンツとなっており、ユニットは 10 分程度の「レッスン」という単位が 18 個集まって構成されている。

そのため、各科目では、本学独自の担当教員によるガイダンス、2 回のレベル確認テスト（事前・事後）、6～8 つの必修ユニット、4 回のライブ指導グループレッスンで、合計 23～29 時間を標準的な授業時間として 1 学期間に学習させるよう設計した（表 2）。

表 2 英語科目授業構成

学習内容	学習時間
ガイダンス	2 時間
レベル確認テスト(事前)	1 時間
必須ユニット(6～8)	18 時間～24 時間
ライブ指導グループレッスン	2 時間(0.5 時間×4 回)
レベル確認テスト(事後)	1 時間
期末試験	1 時間
自習ユニット(随時)	任意

### 5.3 学習内容

#### 5.3.1 ガイダンス

担当教員のオンライン講義による科目の概要、受講方法、成績評価の仕組み等を含むガイダンス動画やマテリアルが約 2 時間分ある。

#### 5.3.2 レベル確認テスト（事前・前後）

学期のはじめと終わりに Voxy 社が提供しているレベル確認テストの受験が必須となっている。各受講者の「読む・聞く・書く」を評価し、英語のレベル、変化、強み・弱みが把握できる。CEFR や TOEIC の点数との換算も可能である。各受講者のレベルや興味に合わせて、ライブ指導グループレッスンのトピックや任意学習コースの Recommend に活用される。また、学習期間最後に再度確認テストを受講することにより、受講者の学習効果が確認できる。

#### 5.3.3 必修ユニット

メインの学習内容として、各科目を 6～8 つのユニットにわけ、さらに各ユニットは 18 レッスンにわか

れている。ユニットごとに家族、買い物、オフィス、ニュース、旅行等の実用的なテーマが用意されている。各ユニットの終わりには、ユニット修了テストがあり、それらを受験することにより、ユニット学習を完了したとみなす。

各レッスンでは、全 12 種類の「読む・書く・聞く」学習アクティビティの中から 3 種類が出題される。例えば、複数の単語を聞き空白に当てはまる単語を回答する (図 1 上)、聞いた単語のスペルを記入する (図 1 下)、読んだ文章に関する質問を答えるようなアクティビティが用意されている。

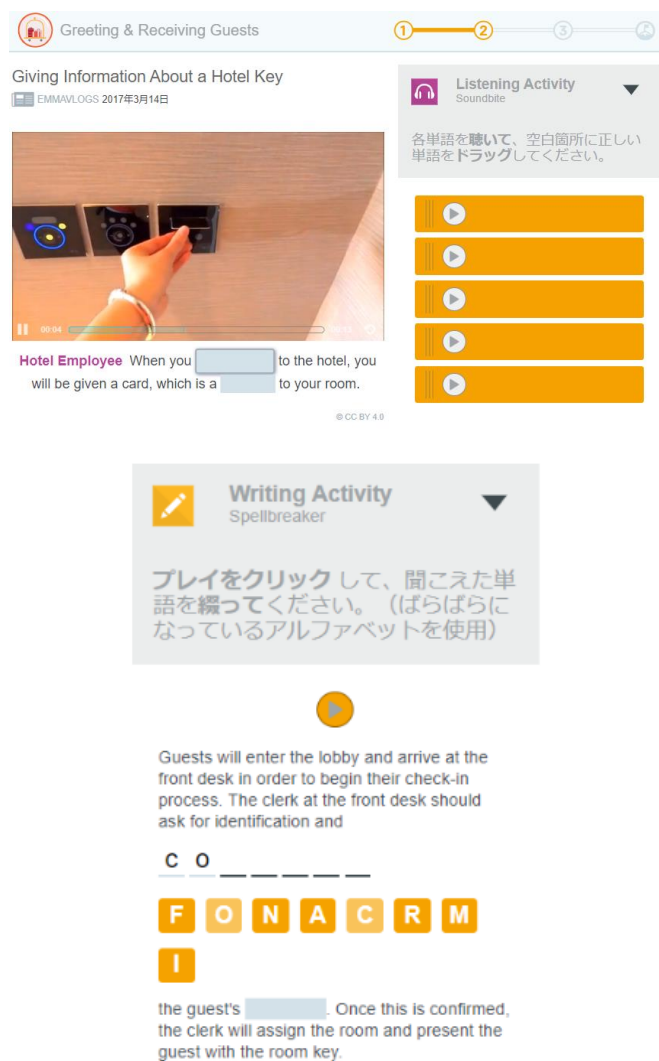


図 1 学習アクティビティ例

### 5.3.4 ライブ指導グループレッスン

自らトピックや時間 (24 時間) を選んで、世界中の Voxy 受講者と共に参加する 30 分の Voxy 認定のネイティブ英語講師とのライブ指導グループレッスンも成績評価対象である。必須課題として 4 回の参加が必要だが、任意で月 30 回まで参加することが可能であ

る。ライブ指導グループレッスンの目的は英語で会話を行うことであり、参加し、発言することに得点を与える。

受講の一般的な流れとしては、まず、レッスン一覧から興味のあるトピックを選択し、随時予約をする (図 2)。その後、指定された事前準備用のレッスンを受講する。

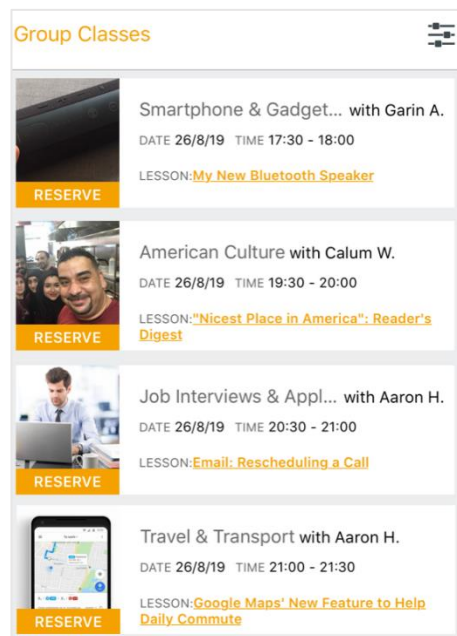


図 2 ライブ指導グループレッスン予約画面例

レッスン本番では、講師及び世界中の受講者 4 名ほどと共にトピックに関連した記事を読み、理解を深め、意見交換やロールプレーを行う (図 3)。

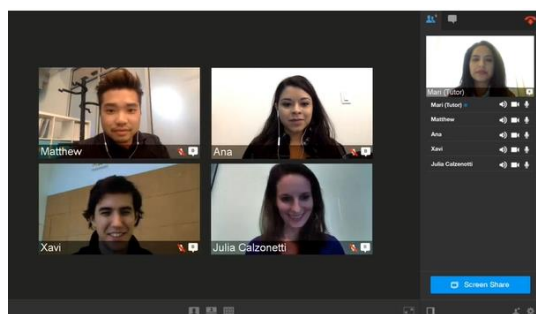


図 3 ライブ指導グループレッスンの様子

講師以外にも世界中の受講者と会話することができるため、様々な英語の発音を聞く経験、海外の文化や考え方を知る経験、複数人での意見交換を行う経験等、ビジネスの会議に近い実践的な経験ができる。

### 5.3.5 自習ユニット

受講者は、必修ユニット以外に様々な教材にアクセスし、自習することができる。

「コースカタログ」からは、データサイエンスやソフトウェアエンジニアリング等のビジネスに特化した実践的な任意学習コースが受講できる（表 3）。

表 3 自習用任意コース例

English for Data Science
English for Software Engineering
English for IT Helpdesk and Support
English for Executive Leadership
English for Digital Marketing
English for Business
English for Cross-Cultural Training

更に、「個別ユニット」では、個人の英語レベルや初期設定で回答した英語の習得目的（交渉、マネジメント、買い物、旅行等）や興味のあるトピックス（ビジネス、テクノロジー、ヘルス等）を分析し、一人ひとりにパーソナライズされた任意学習ユニットが用意される（図 4）。

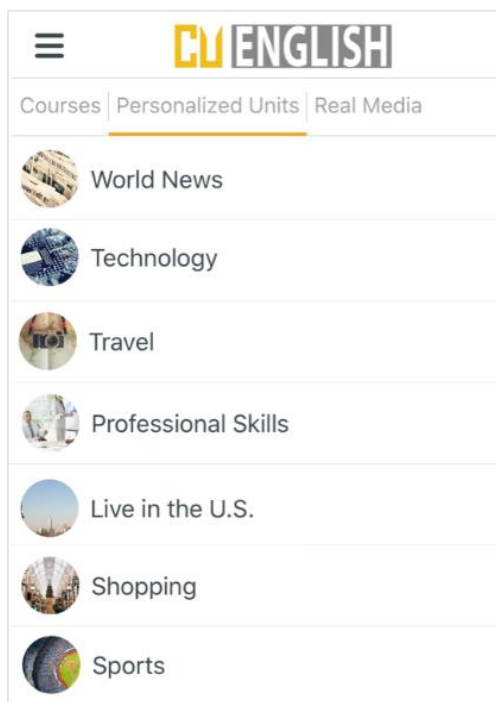


図 4 個別ユニット例

「時事メディア」では、毎日最新のニュース等のコンテンツが学習教材として用意されていて、すでに 5.5 万時間以上のコンテンツがある（図 5）。

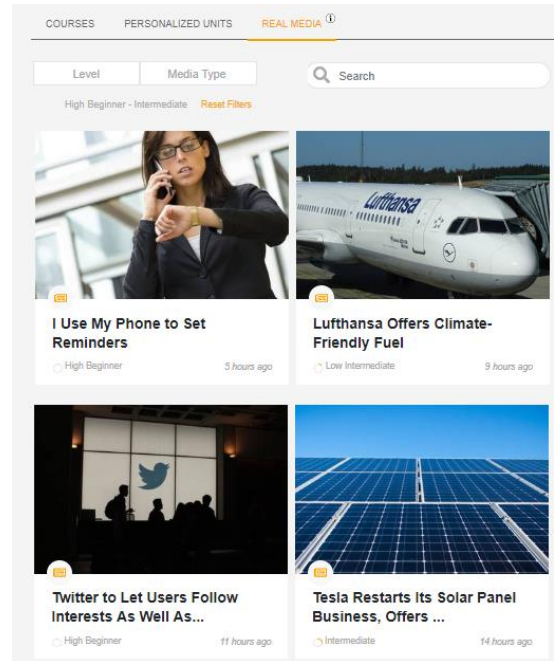


図 5 時事メディア例

「練習」セクションでは、文法・単語・発音の学習ができる（図 6）。

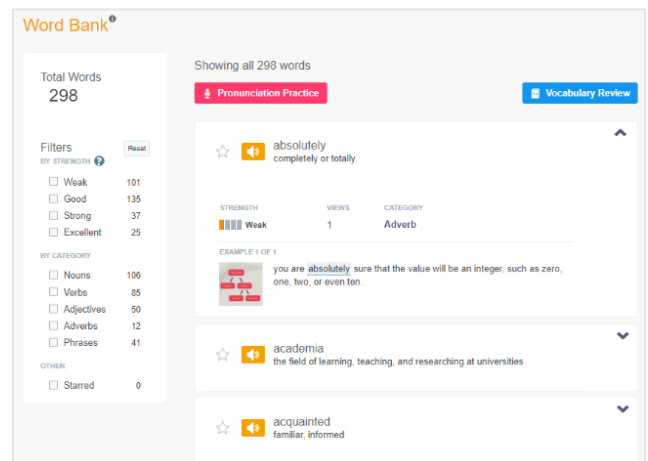


図 6 練習セクション単語帳画面例

### 5.3.6 期末試験

期末試験は、他科目同様、本学独自の学習管理システム「Cloud Campus」上で、単位認定のための試験として作成されている。学生の本人確認は、本学の他の科目で用意されている顔認証・顔監視システムを転用している。

## 6. 成績評価基準

成績の算出方法としては、4 技能のうち「読む・書く・書く」は、CU ENGLISH 内の全学習アクティビ

ティのスキルスコア（図 7）を反映し、「話す」は、ライブ指導グループレッスン参加回数を考慮している。更に、ユニット学習完了、各ユニットの最後に用意されているユニット修了テスト、2 回目のレベル確認テスト及び期末試験を総合的に評価している（表 4）。



図 7 スキルスコア例

表 4 成績評価基準

項目	割合
必修ユニット学習完了	60%
ユニット修了テスト総合得点	
レベル確認テスト 2 回目得点	10%
読む・書く・聞くスキル得点	10%
話すスキル得点 (ライブ指導グループレッスン参加点)	10%
期末試験得点	10%

## 7. 新教材の効果や受講者の反応

2019 年度春学期からの運営のため、まだ 1 学期しか運営しておらず、1 学期目の最終成績も出ていない中、効果の判定は難しいが、現時点で把握できた効果について述べる。

### 7.1 レベル確認テスト（事前・事後）の比較

2019 年度春学期の受講期間 4 月 11 日から 7 月 23 日の間にレベル確認テストを 2 回以上受けた受講者で、テストスコアが上がった受講者は 85%であった。レベル確認テストのスコアは TOEIC 予測スコアへの換算が可能であるが、TOEIC 予測スコアの事前事後の比較

で平均約 200 点の向上が見られた。来期も継続してスコアの変化を確認し、長期の効果測定したい。

### 7.2 受講者による授業評価

授業評価アンケートや受講後の感想で、表 5 のようなコメントが寄せられた。

表 5 受講者コメント例

ユニット学習は、ゲーム感覚のものが多く、ただ単に文章を見るだけでない新感覚がありました。
ライブ指導グループレッスンでは、私の下手な英語でもネイティブの先生と会話を通じました。ネイティブと怖がらず会話をする度胸が少し付きました。
ライブ指導グループレッスンは、ほとんど外国の方という環境が刺激になります。世界中の方々と一緒にできてとても楽しいです。
思いのほか、ライブ指導グループレッスンが面白く、何回も受講しました。学習期間終了後も受講したいです。

## 8. まとめ

本学の正規英語科目に、4 技能を強化する新たなコンテンツを導入した成果を述べた。「読む・書く・聞く」については、事前・事後のレベル確認テストの結果で向上が見られた。更に、「話す」スキルについては、定量的な分析はできていないが、受講者が積極的にライブ指導グループレッスンに参加している様子が確認できた。今学期の最終結果および次学期の結果の観測を継続し、複数期を経た学生のスキル向上進捗の公開を引き続き行うこととする。

### 参 考 文 献

- (1) サイバー大学 3 つのポリシー：<https://www.cyber-u.ac.jp/about/policy.html> (2019 年 8 月 20 日 URL 確認)
- (2) 坂本美枝, 半田純子, 杉村雅之, 西村千春, 東海林康彦: "オンライン外部教材を用いた英語科目設計", e ラーニング研究, Vol. 3, pp.29-38, 2014.
- (3) Voxy: <https://voxy.com/> (2019 年 8 月 20 日 URL 確認).